

2021 11/23

No.2151

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



横浜港で6日夜、150発の花火が上がった。コロナ禍の閉塞感を一掃、地域経済を後押ししようと企画され、事前告知なしで実施された。



contents

| | |
|-------------|---|
| 視点点描 | 3 |
| 46万票の重み忘れずに | |

| | |
|---|---|
| 講演録 | 4 |
| アフターコロナの働き方改革 ～多様な人材を活かす 女性活躍アドバイザー 小安 美和 | |

| | |
|--------------|---|
| デモクラシーの現場から | 8 |
| 正念場の経済再生、党再建 | |

| | |
|--|----|
| 政治 | 10 |
| 「誌上座談会」岸田政権が始動 新味乏しい「成長と分配」 首相の指導力は未知数 | |

| | |
|---------------------------------|----|
| 政治双眼鏡 | 15 |
| 「スピード感」を強調する首相 実績問われる、来夏の参院選 | |

| | |
|----------------|----|
| アジアの風 | 16 |
| レッサ氏ノーベル賞への違和感 | |

| | |
|--------------|----|
| NNAアジア経済レポート | 17 |
|--------------|----|

| | |
|--------------|----|
| 神奈川景気データファイル | 18 |
|--------------|----|

| | |
|--------------|----|
| 神奈川景気データファイル | 19 |
|--------------|----|

事務局だより

◇2021年12月定例講演会 ＝シンポジウム・昼食

12月9日(木)、横浜ベイシェ
ラトンホテル&タワーズ5階
「日輪」(横浜市西区北幸1-
3-23)

▽シンポジウム 午前11時
～午後0時30分

パネリストは、共同通信社の
山根士郎・政治部長、宮野健
男・経済部長、有田司・外信
部長。コーディネーターは神
奈川新聞社の鈴木達也・論説
主幹。演題は「2022年の動
向を読む」

▽昼食 午後0時30分～1時
30分

お席にお弁当をご用意します。
持ち帰りもできます。

※新型コロナウイルス感染拡大の状況
によっては開催方法を変更す
る場合があります。

【お知らせ】 神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045(226) 2121。

視点 点描



46万票の重み忘れずに

10月31日に投開票された川崎市
長選で、現職の福田紀彦市長が3
選を決めた。前回同様に衆院選と
同日に行われ、投票率が57・7%
と5・4%上がった中だったが、
前回を約6万票上回る46万票超を
集め、得票数は歴代市長で最多を
マーク。圧勝と言っていいだらう。
川崎市民はこれまで8年間の福田

市政の実績を評価し、今後の4年
間を託した。
今回の選挙で、福田市長は持続
可能都市を目指し、脱炭素社会、
再生可能エネルギー推進、プラス
チックのリサイクルなど、今世界
が抱える課題の克服に川崎からも
取り組んでいくと訴えた。工業都
市川崎の市長とはいえ地方自治体

にはスケールの大きい「公約」に
も聞こえるが、避けては通れない
こうした問題に首長が率先して取
り組むことは今後求められていく
ことだろう。大きな問題に国との
パイプを生かし、身近な問題に反
映させる。自然と工業を併せ持つ
川崎の市長ならではのポジション
で手腕を発揮してほしい。

一方で、新型コロナウイルス感
染症の先行きがみえない中で、市
民の生活を安定させていくことも
おろそかにはできない。福田市長
は1期目で中学校の完全給食を実
施。2期目には全国初のヘイトス
ピーチに刑事罰を科す条例を制
定。今年4月には待機児童ゼロを
達成している。高い得票数はこう
した実績を評価したと同時に、コ
ロナ禍にあっても着実に安定して
生活環境改善を進めてほしいとい
う市民の意思表示だ。福田市長は
選挙戦の第一声で「まだ生きづら

さを抱える人がたくさんいる。支
援機関などをつなぎ、誰一人取り
残さない安心のネットワークを
しっかりとつくる」と述べた。環境
問題と同じく世界規模の課題でも
ある多様性ある、差別の無い社会、
川崎を目指して、一人一人の市民
の声に耳を澄ませることを続けて
もらいたい。

全国的に少子化が進む中、川崎
では人口が増え続けてきた。しか
し160万人となる2030年を
ピークに減少に転じると予想さ
れ、そうなれば市政運営は大きく
変わる。福田市政3期目以降の課
題ではあるが、目の前を見る目と
未来を見る目の両方を持って、継
続性のある川崎市のブランドデザ
インを描いてほしい。数多くの市
民からの付託は、今後の4年間で
見つめる厳しい視線でもある。

(神奈川新聞社川崎総局長

和城 信行)